

(別紙 12)

大学「地（知）の拠点整備事業」ホームページ掲載用原稿記入フォーム

※以下の項目を参考の上で作成をしてください（様式は自由です）。

実習企業・機関	福島県伊達市役所
実習期間	令和 元年 8月 20日 ～ 令和 元年 8月 25日
学生氏名	齋藤 嶺
実習プログラム	1 日目 9:00～10:00 総務課の方からの総務課の方からのガイダンス(日程及び組織等について) 10:00～10:30 人事課の方からのガイダンス(職員採用について) 10:30～12:00 総合政策課の方からの講義(市のまちづくりについて) 13:10～14:30 地域振興対策室の方からの講義(地域づくり事例) 14:30～15:45 健康推進課の方からの講義(ネウボラ事業について) 2 日目 都市整備課 都市計画係 3 日目 都市整備課 建築開発係 4 日目 市民協働課 9:00～11:00 だてな太鼓まつりの準備 11:00～12:00 空き家バンクの説明 13:00～ 地域おこし支援員 霊山大石地区担当 浜田和彦さんによる取り組みの説明 14:30～ NPO 法人里山がっこうの取り組み 5 日目 9:30～ だてな太鼓祭りの手伝い(猪の皮を使ったキーホルダーの販売)
学び・気づき (300 字程度)	市役所の仕事は主にパソコン業務ばかりでとても堅そうなイメージだったが全然イメージと違っていた。パソコン業務があるのはもちろんのことだが、それ以外にも公共施設を建築することにも携わっていたりお祭りなどのイベント事にも参加していたり、他にも幅広い分野で仕事をしていることが分かった。 最終日のだてな太鼓まつりでは、お手伝いを通して、地域の方々の繋がりや優しさ、歴史を大切にしているということが分かった。伊達市だけではなく、福島市からも出店が出ていたり、地域と地域の繋がりも大切だということが改めて感じられた。

<p>今後に向けた 抱負 (200 字程度)</p>	<p>今後の大学の講義では常に問題意識を持ち、一つの解決策ではなく、その問題の取り巻く状況などを加味しながら色々な方向から考える工夫をしていきたいと感じた。また、グループ活動や他の人の意見を聞くときは、自分の意見と比べながら、相手が自分とどう違うのか、どんな視点を持っているのかなどを考え、その意見にはどのような問題があるのかを素早く判断できるようにしたい。そうした上で、自分の考えにもっと柔軟性を持たせていきたい。</p>
<p>インターンシップをして気づいた、実習先の魅力 (300 字程度)</p>	<p>今回インターンシップをして気づいた伊達市役所の魅力は、とにかく皆さん優しくご指導して下さいましたことである。私分からないことがあったら他の仕事をしてもすぐに手を止めて詳しく丁寧に教えて下さいました。3 日目の建築開発係での実習では実際に現場に連れて行ってもらったり 4 日目の里山がっこうでの話の際も車で乗せて行ってもらったりと、話しを聞くだけでなく実際に体験する機会も設けていただいた。最終日には伊達市伝統のだてな太鼓祭りにお手伝いとして参加させてもらい伊達市の伝統や住民の方々の温かさにも触れることができました。とても充実した 5 日間になった。</p>
<p>写真 (1~3 点)</p>	